

國學院大學學術情報リポジトリ

國學院大學図書館所蔵『西城降誕録』の解題と翻刻

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高見澤, 美紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000704

國學院大學図書館所蔵『西城降誕録』の解題と翻刻

高見澤 美 紀

はじめに

本稿は國學院大學図書館が所蔵する資料のうち、江戸幕府十一代將軍徳川家治誕生前後の記録をまとめた『西城降誕録』(以下「本史料」とする)の翻刻に若干の解題をしたためるものである。なお、本史料は本学HPデジタルライブラリー⁽¹⁾にて画像の公開があり、体裁等についての確認が可能である。

一、書誌的事項

本史料は本学図書館において準貴重書にカテゴリズされる。これは本学図書館が戦前に受け入れた史料群のうち、現在の貴重書同等の史料資料である旧貴重書を除いたもので、正式には「旧分類図書」とされる書籍類⁽²⁾のことである。分類番号としてV19612が付されている。分類「V」には有職故実などを扱った書籍史料が多く含まれ、そのうちの96番目に位置する2冊本であることを示している。

蔵書印などから本史料の来歴を見ておこう〔画像1・2〕^③。蔵書印⑥「富岳南三好印」・⑦「養閑齋蔵書記」は三好維堅氏のもので、明治四十二年八月二日に三好氏から皇典講究所へ寄贈されたことが⑤寄贈印・⑧「皇典講究所図書之章」、表紙貼付の②「皇典講究所図書標箋」から知れる。皇典講究所の図書はそのまま國學院大學図書館へと引き継がれ、④「國學院大學図書館印」を付し、現在の分類番号が付与されたとみられる。

本史料表紙には画像1に示した通り③題簽が貼付され、1冊目に「西城降誕録 乾」、2冊目は題簽が破損しており「〔 〕録 坤」の部分のみが残る。これにより1冊目を乾巻・2冊目を坤巻とする。内題も「西城降誕録」(画像2参照)だが、下小口には「元文西城降誕録」の墨書がある。外題(表紙題簽)・内題ともに「西城降誕録」であることから、これを書名とした。なお、読みについては西之丸を示す「西城」に「さいじょう/せいじょう」の両様があるため、表記に揺れを生じている。^④

表紙の料紙は縹色無地であるが、乾巻の裏表紙は欠損している。表紙法量は縦27・8糎×横19・1糎で、四ツ目綴の縦長本という仕様である。内容は7巻構成で、江戸時代の写本とみられ、乾巻55丁・遊紙1丁に西城降誕録巻之一(巻之四の4巻分が、坤巻29丁・遊紙1丁に西城降誕録巻之五(七の3巻分が収載されている)。



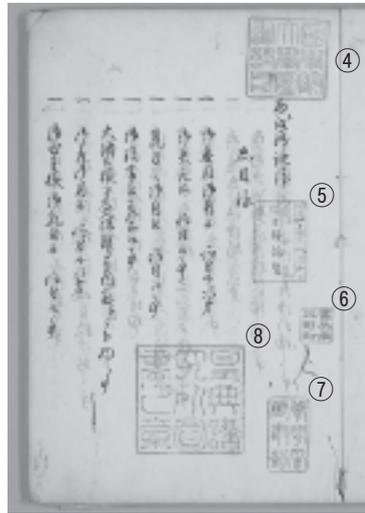
画像1-2 西城降誕録 坤(表紙)



画像1-1 西城降誕録 乾(表紙)



画像3 諸家献上御産衣台之図



画像2 藏書印(乾1丁オモテ)

二、史料解題

八代將軍吉宗の実子である大納言家重を父とした家治は、元文二年（一七三七）五月二十二日に江戸城西之丸（西城）に生まれた。將軍繼嗣の子が江戸城西之丸で誕生したのは、五代將軍綱吉の養子家宣の子供たち以来約三十年ぶりとなる。

記述内容について概観しておこう。前述した通り7巻構成で、乾巻冒頭には惣目録が付されている。乾巻・坤巻中の巻数と総目録中の項目を対照させ、本文中からわかる日付を付したものが〔表〕である。総目録の項目は、例えば1・2のように一つの箇条をいくつかに分けている箇所が多く、日付欄で箇条の独立性が分かるようにした。また本文には総目録の項目として取り上げられない箇条も多く含まれている。

卷之一は元文元年十二月十九日の懐妊と御産御用懸の任命記事から始まり、翌二年五月四日の山王・神田明神での安産祈禱を命じたところまでで、誕生前儀礼ならびに誕生後儀礼の準備に関する条項である。大名の石高別に割り当てられた献上産衣の種類・数量、出生時間に伴う機嫌伺い刻限の変化、祝儀品の額など、その規程は詳細で多岐に亘る。

卷之二は元文二年五月二十一日の誕生から始まり、五月二十五日までに執り行われた誕生儀礼や惣出仕について詳細な記述がある。卷之三からは五月二十八日の御七夜祝儀に関する記述で、吉宗・家重などからの褒美品、また事前規定された通り、御三家・御家門などをはじめとした諸大名の献上物が書上げられ、卷之六まで続く。この間に乾巻から坤巻へと変わっている。なお卷之四について、総目録からは記載が漏れているが本文では上・下に分けられ、上では御七夜御祝儀として御三家、御家門、国持大名、老中・若年寄からの献上物が、下では諸大名からの献上物が

〔表〕『西城降誕録』の巻数と総目録項目対照表

巻	巻数	年月日	項目名	
乾	卷之一	元文元年	1 御臺目御用被仰付候次第	
		12月19日	2 御失敗被仰付之事	
		12月19日	3 薙刀之御用被仰付之事	
		12月19日	4 御祝帯被差上候事	
		12月22日	5 大納言様 <small>の</small> 大久保対馬守内室 <small>に</small> 被下物之事	
		元文2年正月11日	6 御産御用被仰付候次第	
		2月27日	7 御出生様御乳付被仰付候事	
		2月7日	8 御出生様 <small>に</small> 献上物之品御触之事	
			9 公方様大納言様 <small>に</small> 献上物員数御触之事	
			10 御産婦 <small>に</small> 諸大名 <small>の</small> 贈物之事	
			11 御乳人御介添 <small>に</small> 諸大名 <small>の</small> 贈物之事	
			12 御本丸西 <small>の</small> 丸老女 <small>に</small> 諸大名 <small>の</small> 贈物之事	
			13 御本丸西 <small>の</small> 丸表祝 <small>に</small> 諸大名 <small>の</small> 贈物之事	
			14 御本丸西 <small>の</small> 丸老女名付之事	
			4月*	15 西 <small>の</small> 丸惣出仕御触之次第
			4月*	16 西 <small>の</small> 丸江六ツメ迄迄向御機繰出仕御触之事
			(記載なし)	17 山王神田明神 <small>に</small> 御安産御祈禱之事
	5月4日	18 若君様御誕生刻限之事		
	5月22日	19 御臺目被相助候次第		
	5月22日	20 御臺目執行之席之次第		
	5月22日	21 御臺目御祝儀之品之次第		
		22 御産所御床鋳物之事		
	5月22日	23 御床棚江御備物之次第		
		24 惣出仕之事并老中廻之事		
	5月23日	25 御二ツメ西 <small>の</small> 丸 <small>に</small> 出仕之事		
	卷之二	5月25日	26 御七夜之節下馬立御触之事并下馬立之因	
		5月*	27 若君様御座所 <small>に</small> 不罷出候覚	
		5月25日	28 井伊掃部頭御用 <small>に</small> 出府之事	
		5月25日	29 日光御名代被仰付候事	
		5月28日	30 御七夜之節献上物立場之次第	
		5月28日	31 惣出仕二付下馬立之事	
		5月28日	32 公方様西 <small>の</small> 丸 <small>に</small> 御成之事	
		5月28日	33 為御祝儀出仕之面々着座之次第并御祝儀之餅頂戴之事	
		5月28日	34 竹子代様 <small>に</small> 御名被進候事	
		5月28日	35 御唯子組之次第	
	卷之三	5月28日	36 公方様大納言様 <small>の</small> 竹子代様御祝儀被進候事	
		5月28日	37 公方様 <small>の</small> 大納言様 <small>に</small> 御祝儀被進事	
		5月28日	38 大納言様 <small>の</small> 公方様 <small>に</small> 御祝儀被進候事	
		5月28日	39 公方様大納言様 <small>の</small> 御女中様方 <small>に</small> 被進物之事	
		5月28日	40 公方様大納言様 <small>の</small> 右衛門督殿・刑部御殿 <small>に</small> 被進物之事	
		5月28日	41 大納言様 <small>の</small> 御三家方 <small>に</small> 被進物之事	
		5月28日	42 大納言様 <small>の</small> 御家門方 <small>に</small> 被進物之事	
		5月28日	43 公方様大納言様 <small>の</small> 御役人方 <small>に</small> 被下物之事	
		5月28日	44 大納言様 <small>の</small> 女中方 <small>に</small> 被下物之事	
			45 御御衆 <small>に</small> 御祝儀被下候事	
	46 御小姓御小納戸衆 <small>に</small> 御祝儀被下候事			
	47 竹子代様附被 仰付候事			

巻	巻数	年月日	項目名
乾	卷之四	5月28日	48 若君様 <small>に</small> 御七夜 <small>に</small> 為御祝儀御三家方 <small>に</small> 献上物之事
			49 御家門方 <small>に</small> 献上物之事
			50 因持大名 <small>に</small> 献上物之事
			51 御譜代大名 <small>に</small> 献上物之事
			52 御老中若年寄方 <small>に</small> 献上物之事
	53 御産衣台之因		
	卷之五	5月28日	54 公方様 <small>に</small> 若君様御七夜 <small>に</small> 付御三家方 <small>に</small> 献上物之事
			55 御家門方 <small>に</small> 献上物之事
			56 因持大名 <small>に</small> 献上物之事
			57 御譜代大名 <small>に</small> 献上物之事
58 外様大名 <small>に</small> 献上物之事			
59 御老中若年寄方 <small>に</small> 献上物之事			
卷之六	5月28日	60 若君様 <small>に</small> 御三家之嫡子方 <small>に</small> 献上物之事	
		61 拾万石以上之嫡子・隠居方 <small>に</small> 献上物之事	
	5月28日	62 御産婦 <small>に</small> 御三方同嫡子方 <small>に</small> 贈物之事	
坤	卷之七	6月6日	63 御産婦 <small>に</small> 拾万石以上之嫡子隠居方 <small>に</small> 献上物之事
			64 惣出仕之次第
			65 御能拜見 <small>に</small> 着座次第
	6月7日	66 於席々御料理被下置候事	
		67 御能番組之次第	
		68 諸町人 <small>に</small> 御能拜見被仰付候事	
		69 惣出仕之事	
	卷之七	6月7日	70 日光御名代之事
			71 高家衆京都 <small>に</small> 御使之事
		6月*	72 竹子代様御医師被仰付候事
6月*		73 十三日御能之次第	
		74 御部屋様御一家方 <small>に</small> 被進物之事	
		75 十八日御能之次第	
		76 惣出仕之事	
	77 廿三日御能之次第		

*日にち記載なし
 ※「同十三日」と記載

書き上げられている。その際に使用されたであろう「諸家献上御産衣台之図」（画像3、翻刻では省略）が彩色の挿絵として上・下の間に配置されている。

卷之七は宮参りや医師の任命とともに、御七夜以降の誕生祝儀として、幕臣等の物出仕・能拜見と翌日の礼などについて記述される。「御二七夜御祝儀」として誕生十四日目にあたる六月六日には惣出仕ならびに能の拜見が行われ、この時には諸町人も正月時同様に白洲での拜見を許されている。「御三七夜御祝儀」として誕生二十一日目にあたる同十三日も惣出仕となるが、その前日の十二日に能拜見がある。同十八日には「御誕生之為御祝儀」出仕と能拜見があるが、これは十二日に出仕できなかった者たちを対象としていた。⁷⁾誕生ひと月を迎えた同二十三日に「右之祝儀二付」として能拜見、翌二十四日の「御能之御礼」の出仕の記事で大尾となる。將軍継嗣誕生の城中儀礼が詳細に記述され、元文期の幕臣間における格の相違が明確に記されている。

本史料の諸本については、『国書総目録』によると同名史料「西城降誕録」が蓬左文庫に一冊本の写本として所蔵されている。¹⁰⁾「有徳院殿御実紀」では家治誕生前後の記述について「西城降誕録」を引用書として¹¹⁾いるが、御書院番頭松平忠根の妻が乳付に任せられる記述について本史料では二月二十七日に、「有徳院殿御実紀」では二月二十五日となっているなど、日付・人名等に齟齬がある箇所が見受けられる。また、家治の幼名「竹千代」を冠した史料名を持つ諸本が存在し、そのうち内閣文庫等¹²⁾で所蔵される「竹千代様御誕生記」¹³⁾は「公孫降誕録」の別名を持つ。¹⁴⁾内容は本史料とかなりの類似性があるも、相互に記事の出入りがある。いくつかの写本系統があるとみられ、今後の調査が必要となろう。なお、宝暦十二年（一七六二）に、同じく幼名を「竹千代」とする家治の実子家基が西之丸にて誕生した際にも、同名の記録が複数作成されている。本史料の小口に「元文」が付されているのは、この区別のためと考えられる。

おわりに

従来、江戸城内の儀礼に関しては、將軍と幕臣との直接的な関係性としての検討が多くなされてきた。本史料が扱う將軍継嗣の子の誕生をめぐる儀礼は、勿論その祖父である將軍との関係を前提としたうえで、将来的な関係性をも見据えたものと言える。また一方で、「徳川將軍家」相続のため紀伊家から養子に入った吉宗⁽¹⁵⁾にとって、江戸城西之丸での継嗣誕生の重要性は「竹千代」命名からも窺えよう。

本史料および諸本の詳細な検討、また宝暦期の家基誕生時などとの比較により、江戸城内儀礼の詳細や儀礼を通じた武家格式のみならず、近世中期の徳川家相続に関する新たな側面を見出すことができるのではないかと考える。

註

- (1) 本学図書館HPデジタルライブラリーのうち「12. 史学・法制関係」カテゴリ。
- (2) 現在の貴重書は戦後に本学図書館に収蔵されたもので、元和年間以前の写本、元禄以前の刊本、名家手拭本、名家自筆本、コレクションなどからなる。(國學院大學図書館所蔵 中近世文書書籍目録) 凡例、平成二十七年、國學院大學研究開発推進機構 校史・学術資産研究センター編集・発行)
- (3) 画像2は乾巻のものであるが、坤巻にも同じく押印がある。なお各冊とも中ほどの丁に「國學院大學図書館印」(陽刻・朱丸印)、巻末に⑥「富岳南三好印」の押印がある。
- (4) 本学図書館デジタルライブラリーでは「さいじょう」読み、註2「國學院大學図書館所蔵中近世文書書籍目録」書籍索引では「せいじょう」読みをそれぞれ採用している。
- (5) 西之丸で誕生した家宣の子は、宝永四年(一七〇二)に家千代(二か月で早世)、翌五年に大五郎(同七年死去)、翌六年にのちの七代將軍家継、正徳元年(一七一二)虎吉(早世)となる。ただし吉宗とは異なり、綱吉にとって「孫」という関係性にはあ

らない。

(6) 実際に誕生した日時は「五月廿一日明ヶ七ツ時(午前四時前後)」であったが、「明ヶ七ツ時廿二日之日取」とした旨が本文にある。

(7) 「有徳院殿御実紀卷四十五」元文二年六月十八日条(『新訂増補国史大系第四十五卷 徳川実紀第八篇』昭和八年、吉川弘文館)

(8) 本史料廿三日条「右之」の右辺に特に祝儀の名称となるものは書かれず、廿四日条「右之刻限」とあるも刻限表記はない。本史料作成時の略記・脱字等と考えられ、写本の底本があつたものの証左となろう。

(9) 愛知県名古屋市にある尾張徳川家の旧蔵書を中心に和漢の古典籍を所蔵する公開文庫。

(10) 昭和四十八年、岩波書店発行。「さいじょうこうたんろく」(第三卷)・「せいじょうこうたんろく」(第五卷)それぞれに記載があるが、内容から同一史料と思われる。ただし、時期や内容等の詳細は未見のため不明。

(11) 各記述後に初出のみ(西城降誕録)、以降(降誕録)とある。

(12) 太政官および内閣所管の和漢書・洋書のコレクションで、東京都千代田区にある国立公文書館に保管される。

(13) 請求番号153-0159、昌平坂学問所旧蔵本。国立公文書館デジタルアーカイブにて公開。

(14) 表紙短冊に「公孫降誕録」とある。

(15) 古宗にとっての徳川將軍家相続に対する考えについては拙稿「小金牧における將軍鹿狩と周辺村落―挙行意図とその舞台―」(『鎌ヶ谷市史研究』二六号、平成二五年)参照。

【翻刻凡例】

- ・漢字の旧字・異体字は常用漢字・通行の字体に改めた。
- ・変体仮名はひらがなに改めた。ただし助詞の「江」「茂」「者」「而」「与」はそのままとし、小字右寄せとした。
- ・適宜読点・並列点を付した。また二段表記とした箇所には中心に罫線を入れた。
- ・敬意を表す闕字は一字あげ、平出は二字あげ、台頭は三字あけて示した。
- ・文字の誤用等については原史料のままとし、わかりにくい部分のみ（正字）・（ママ）を付した。

【翻刻】

（表紙・題簽）「西城降誕録 乾」

西城降誕録

惣目録

- 一 御幕目御用被 仰付候次第
- 一 御矢取被 仰付之事
- 一 篋刀之御用被 仰付之事
- 一 御祝帯被差上候事
- 一 大納言様今大久保対馬守内室江被下物之事
- 一 御産御用被 仰付候次第

- 一 御出生様御乳付被 仰付候事
- 一 御出生様^江献上物之品御触之事
- 一 公方様 大納言様^江献上物員数御触之事
- 一 御産婦^江諸大名^江贈物之事
- 一 御乳人御介添^江諸大名^江贈物之事
- 一 御本丸西之丸老女^江諸大名^江贈物之事
- 一 御本丸西ノ丸表使^江諸大名^江贈物之事
- 一 御本丸西ノ丸老女名付之事
- 一 西ノ丸惣出仕御触之次第
- 一 西ノ丸^江六ツめ迄伺御機嫌出仕御触之事
- 一 山王神田明神^三御安産御祈祷之事

卷之二

- 一 若君様御誕生刻限之事
- 一 御褰目被相勤候次第
- 一 御褰目執行之席之次第
- 一 御褰目御祝儀之品之次第
- 一 御産所御床鋸物之事
- 一 御座棚^江御備物之次第

一 惣出仕之事并老中廻之事

一 御二ツめ西ノ丸^江出仕之事

一 御七夜之節下馬立御触之事并下馬立之図

一 若君様御座所^江不罷出候覺

一 井伊掃部頭 御用^ニ出府之事

一 日光御名代被 仰付候事

卷之三

一 御七夜之節献上物立場之次第

一 惣出仕^ニ付下馬立之事

一 公方様西ノ丸^江御成之事

一 為御祝儀出仕之面々着座之次第并御祝儀之餅頂戴之事

一 竹千代様^与御名被進候事

一 御囃子組之次第

一 公方様 大納言様^分 竹千代様御祝儀被進候事

一 公方様^分 大納言様^江御祝儀被進事

一 大納言様^分 公方様^江御祝儀被進候事

一 公方様 大納言様^分御女中様方^江被進物之事

一 公方様 大納言様^分右衛門督殿・刑部卿殿^江被進物之事

一 大納言様江御三家方江被進物之事

一 大納言様江御家門方江被進物之事

一 公方様 大納言様江御役人方江被下物之事

一 大納言様江女中方江被下物之事

一 御側衆江御祝儀被下候事

一 御小姓御小納戸衆江御祝儀被下候事

一 竹千代様附被 仰付候事

卷之四

一 若君様江御七夜為御祝儀御三家方江献上物之事

一 御家門方江献上物之事

一 国持大名江献上物之事

一 御譜代大名江献上物之事

一 御老中若年寄方江献上物之事

一 御産衣台之図

卷之五

一 公方様江 若君様御七夜二付御三家方江献上物之事

一 御家門方江献上物之事

一 国持大名江献上物之事

一 御譜代大名江之献上之事

一 外様大名江之献上之事

一 御老中若年寄方江之献上之事

卷之六

一 若君様江御三家之嫡子方江之献上之事

一 拾万石以上之嫡子・隠居方江之献上之事

一 御産婦江御三家方・同嫡子方江贈物之事

一 御産婦江拾万石以上嫡子・隠居方江之献上物之事

卷之七

一 惣出仕之次第

一 御能拜見江着座次第

一 於席々御料理被下置候事

一 御能番組之次第

一 諸町人江御能拜見被 仰付候事

一 惣出仕之事

一 日光御名代之事

一 高家衆京都江御使之事

一 竹千代様御医師被 仰付候事

一 十三日御能之次第

一 御部屋様御一家方江被進物之事

一 十八日御能之次第

一 惣出仕之事

一 廿三日御能之次第

西城降誕録卷之一

一元文元年丙辰十二月十九日

大納言様 御部屋様御懷妊被遊候ニ付、来巳ノ五月

御出産御当り月ニ付、右御産

御用懸り被 仰付候面々

同日

一 御墓目 御老中 松平左近将監

一 御矢取 左近将監嫡子 松平和泉守

一 御産御用 御老中 本多中務太輔

右 西之丸御産御用於 御前被 仰付之

一 御篋刀 酒井雅楽頭

右 右者 雅楽頭在所ニ罷在ニ付 名代 酒井日向守

右 西之丸 御産御用被 仰付之旨、御黒書院於溜之間老中列座、中務太輔申渡之

一大久保対馬守内室方今度於 西之丸御産ニ付左之通被差上之

御いらい帯

二筋 紅白

一 こんふ

一折 十二

御樽

一折 十二
一荷

右之通 西之丸大奥御広敷迄以使被差上之

一同廿二日 大納言様今大久保対馬守妻方江被下候品

一 紗綾

五卷

紅二
白三

右著 西丸女中江妻方御祝儀差上候ニ付、右之通 大納言様今妻江拝領物被 仰付之候旨、本多中務太輔申渡之

一同二年丁巳正月十一日

西之丸御産御用被

仰付候面々

内藤越前守
瀧川播磨守
神谷志摩守
小笠原孫十郎

御納戸

須田甚三郎
横田源右衛門

御細工頭

(石原彦太夫
岡田源七郎

右著 西之丸 御産御用被 仰付之

一二月廿七日、御書院番頭松平肥前守内室、今度於 西之丸就 御誕生右 若君様御乳付被 仰付之

一二月七日、諸大名献上物御触之覚 但シ御三家へハ御城附之御家来へ、諸大名へハ留守居共へ於中務太輔宅渡之

於 西之丸御七夜御祝儀献上物員数

御出生様江

一 御産衣 一重
御道具 御大小_{ニ而} 三拾枚
二種 一荷 六拾万石以上

一 御産衣 一重
御道具 御大小_{ニ而} 式拾枚
二種 一荷 式拾万石以上

一 御産衣 一重
御道具 御大小_{ニ而} 拾枚
二種 一荷 拾万石以上

一 御産衣 一重
御道具 御大小之内一腰 五枚
一種 一荷 六万石以上

一 御産衣 一重
 御道具 御大小之内一腰 三枚
 一種 三万石以上

但シ五万石以上者一種一荷也

一 御産衣 一重
 一種 壹万石以上

一 御脇差者御小脇指たるへく候、御大小共御拵常之献上 御道具之通、尤三所物御紋ニ不及候
 一 御産衣式拾万石以上者御上召唐織・ 御下召羽二重、其以下ハ 御上召綸子・ 御下召羽二重たるへく候
 一 両番頭以上者御肴一種可差上候

但シ万石以上之大番頭者高並之通可差上候

一 公方様 一 二種一荷宛 拾万石以上
 一 大納言様江

一 両上様江 一 一種一荷宛 五万石以上

一 両上様江 一 一種宛 壹万石以上

一 両番頭以上者御肴一種可差上候

但シ万石以上之御番頭者高並之通可差上候

一 公方様
 一 大納言様 一種一荷宛 拾万石以上嫡子隠居
 御出生様江

一 御産婦江

一 白銀貳枚
壹万石以上

一 白銀三枚
五万石以上

一 白銀五枚
拾万石以上

一 白銀拾枚
三拾万石以上

一 白銀貳拾枚
六拾万石以上

一 白銀三枚
拾万石以上嫡子隱居

一 御乳人
江

一 御介添

御本丸 西之丸

一 老女

一 白銀三枚宛
三拾万石以上

一 白銀貳枚宛
拾万石以上

一 白銀壹枚宛
五万石以上

御本丸 西之丸

一 表使

御出生様 江

一 御さし

一 白銀貳枚宛
三拾万石以上

一 白銀壹枚宛

拾万石以上

一金貳百疋宛

五万石以上

右之通可被差上之候

一 公方様^江之献上物者 御本丸御玄関より

一 大納言様・御出生様^江之献上物者 西之丸御玄関令、御産婦且女中^江之贈物者 西之丸中之口迄、御七夜 御祝儀之当

日朝六時より五ツ時迄之内、在国在所之面々共一同^ニ以使者可有献上候、且又疱瘡・麻疹・水痘之看病人者^{追而}御祝儀可被差上候、尤其節可被相伺候

但御本丸女中^江之贈物者 御本丸中ノ口迄可被差越之候

一 右献上之御道具、所持之内相応之道具有之候ハ、有合候を可被差上候

一 此度 御誕生之節献上之御産衣 若君様^江之支度致し置、御姫様^{ニ而}も右支度 御産衣其俣^{ニ而}可有献上候、二通

り之支度^{ニハ}不及候

右之通御三家・拾万石以上之面々御触有之

一 二月

右^者御篋刀之御用被 蒙 仰候^{ニ付}、酒井雅楽頭三月朔日比参府

一 四月 諸大名^江御触之次第

一 御誕生・御七夜之節、惣出仕之面々老中右京大夫・能登守・若年寄中^江可被相廻事

但隠居・幼少・病氣之面々^者、右両度共右京大夫・能登守^江以使者御祝儀可申上候

一 御誕生御祝儀、在国在邑之面々^者、承知之上以使札御祝儀可申上候

但在国在邑之隱居・部屋住^茂可為使札事

一 御七夜之御祝儀、在国在邑之五万石以上之面々^者、承知之上使札可被差越候、其外^者可為飛札事
 但在国在邑之隱居・部屋住、拾万石以上^者可為使札、其外可為飛札事

右之趣、万石以上・其外向々^江可被相達候、以上

一 四月、御七夜之節贈物有之、女中之人数名付

御本丸老女

同 表使

豊岡
八嶋
浦尾

藤野
岩野
春野
深野

西ノ丸老女

西ノ丸表使

桜たの
瀬川
瀧津

平尾
富尾
幾田
町野

若君様

若君様

御年寄耆人

御乳人耆人

若君様

御さし耆人

一 若君様御年寄^江之贈物員数^者 御本丸・西ノ丸老女之通たるべく候、其外^者先達^而相達候員数之通^ニ心得候様^ニ、万石以上女中^江贈物有之面々可被相達候、以上

一 四月、西ノ丸朝 御誕生候ハ、御三家始諸大名当日 御本丸、夫より西之丸へ登 城、併遲承候面々八ツ時以後 候ハ、月番之老中能登守_江可被相越事

一 八ツ時以後 御誕生_ニ候ハ、月番_江届_ニ不及、翌日可為惣出仕事

一 御誕生_ニ付出仕之儀、御精進日_ニ而茂 御機嫌伺_ニ而、御祝儀ハ追_ニ而可申上事_ニ候間不苦候事

一 御誕生御七夜之節、西ノ丸_江御三家始惣出仕、夫_分 御本丸_江惣出仕

一 御七夜迄之内、御三家_者毎日 西ノ丸_江為伺御機嫌御使者可被差出候、其外諸大名者能登守宅_江使者可被差越事

西之丸_江為伺御機嫌出仕之覚

一 二ツめ

溜り詰御譜代大名父子共_ニ
高家衆・詰衆・御奏者番
布衣以下之御役人

一 三ツめ

高家衆・詰衆
御奏者番

一 四ツめ

詰衆嫡子・菊之間縁類詰
父子共_ニ

一 五ツめ

諸番頭・諸物頭
布衣以上御役人

一 六ツめ

高家衆・詰衆・御奏者番
布衣以上御役人

右之通可被罷出事

一 五月四日

山王

樹下民部

神田明神 芝崎宮内少輔

右^者五月四日寺社奉行牧野越中守宅^江被召呼、直^ニ被仰渡候^者、於 西ノ丸 御安産之御祈祷被 仰付候間、執行可仕候、御祈祷料被下置候、尤 御誕生以後御七夜迄御祓・御守可被差上之旨被 仰付候

西城降誕録卷之二

一元文二^{丁巳}五月廿二日

但廿一日明ケ七ツ時 御誕生候得共、明ケ七ツ時合廿二日之日取成り

今曉寅ノ刻於 西ノ丸 若君様 御誕生被遊候

御産婦^者 梅溪前権中納言 從二位源通條卿当^巳六十三歳 御息女也

松平左近将監

同 和泉守

右御墓目勤之 是日父子共褐色定紋帷子色子西筋長上下着之

一 陰陽弓 一 張

一 陰陽矢 二 筋

但長鬘斗鮑添之

一 御墓目、廿二日合御七夜迄毎日左近将監父子勤之、同廿八日終之

右墓目執行之席役置之

一 御弓 一箱
 一 御矢 一箱
 一 末広扇子 一箱
 一 畳紙 一箱
 一 挟串 一箱
 一 御瓶子 一對
 一 三組御盃台 一筒

御墓目御祝儀之品

三種之御肴

一 熨斗一 昆布一 かちくり一 吹ちらし
 一 三方

御産所御床鋸

一 蓬菜 御土器三 御瓶子 一 銚子
 一 御提子

右御床鋸 御誕分御七夜迄有之候

御産棚 御備物

御初饗 御三盃 御熨斗鮑 根松 玉椿 饗公饗三膳 小燭台 御押桶 御瓶子 提子

一 御長柄御挑子一筒
 一 御提子 一筒
 一 染台 一筒
 一 畳 一畳
 一 米 三俵
 一 梯子 一筒
 一 薦 一枚

以上

御飯毎日改御六ツ目迄

左之通備之

朝

(塩小鯛
大根)

小石御飯

夕

(海老
かなかしら)

小石御飯

御三ツ目 赤飯

御七夜

朝

(塩小鯛
大根)

小石御飯

夕

(海老
金かしら)

小石御飯

次米精 五百八拾七小餅

一三方三膳内二倍御盃三方 但木地白絵御紋付

二膳内一膳ハ御熨斗三方也 但木地白絵御紋付

一倍

一御薄盤 拾四膳

内式拾ハ金たみこんしゃう御紋御絵根残り

十倍ハ木地白御紋御絵様

一間之土器 二十一 内三ツハ銀たみ三ツハ木地

一三之薄盤 二拾 内一膳ハ木地一膳ハ金たみ こんしやう絵様

一尺長箸 十四膳

一同 台 十四 内式ツ金たみ

一ふくめ形 式ツ 内壺ツ矢筈付

一食曲物 拾四 内式ツハこんしやう御紋

一銀之水引 廿把

一御銚子・提子 一組 内銀めつきに台有

以上

一同日 右為御祝儀出仕之面々

御三家方始惣出仕有之

西之丸^江被為御祝儀登 城有之

但退出以後、諸大名御老中右京大夫・能登守^江右為御祝儀被相廻候、尤若年寄共^ニ

一同十三日御二ツめ^(マ)

西丸^江出仕有之面々

溜り詰・御譜代大名父子共^ニ
 高家衆・詰衆・御奏者番
 布衣以上之御役人

一廿四日御三ツめ

西丸^江出仕有之面々

高家衆・詰衆・御奏者番

一廿五日御四ツめ

西丸^江出仕有之面々

詰衆嫡子・菊之間縁類詰父子共^二

一同日御触之趣

御七夜之節、外桜田御門之外・馬場先御門之外・和田倉御門之外、右三ヶ所下馬に相成候、右場所^江出役御徒目付罷出候、常々往来^者乗物・步行立之者計相通シ可申候、依之申達置候、以上

巳五月

一廿六日御五ツめ

西丸^江出仕有之面々

諸番頭・諸物頭・布衣以上御役人

一廿七日御六ツめ

西丸^江出仕有之面々

(高家衆・詰衆・御奏者番
布衣以上御役人)

一五月被 仰出候趣

若君様御座所^江不罷出候品

一 疱瘡病人^者、相見候日より三十五日過候ハ、肥立次第罷出被相勤事

一 麻疹・水痘病人^者、三番湯懸り候ハ、御番等可相勤事

一 疱瘡・麻疹・水痘看病人^者、三番湯懸り候ハ、罷出、御番等可相勤事

但病家棟隔看病不致候ハ、不及遠慮、同棟之者看病不致候共遠慮可仕候事

一 御医師、疱瘡・水痘之病家^江見廻療治仕候ハ、當日ハ 御目見遠慮、翌日ハ不及遠慮候事

右之通 若君様御座所^江遠慮可仕候、且又 御本丸之儀^者不及遠慮候

但シ 若君様 御本丸へ被為人候節、且又 西丸^江被遊 御出候節、御目通りへハ御定日数之通不可罷出候

一同廿五日、井伊掃部頭、御用之儀有之^三付早々出府可仕之由^二而、御連名御奉書今日相渡候、但シ此度之御誕生之

御用歟

一同日 若君様 御誕生^三付 日光 御宮 御靈屋^江

公方様^ハ御名代 阿部豊後守

大納言様^ハ御名代 松平隱岐守

代り 酒井雅楽頭

右御白書院於御縁類、老中列座、伊豆守申渡之

西城降誕録卷之三

一 五月廿八日 若君様御七夜御祝儀^三付、御本丸 西之丸^江諸大名より献上物多ク有之^三付、大手・桜田・西大手、

右三ヶ所^ニ而升を立、朝六ツ時^ニ分段々に献上物操込申候、尤五ツ時迄之内右献上物相済

献上物等多ク且惣出仕有之込合^ニ付下馬立之事

一下馬 外桜田御門之外

一下馬 馬場先御門之外

一下馬 和田倉御門之外

右^者以前御触有之候^ニ付、右三ヶ所下馬^ニ立也

尤五月廿八日・六月十三日、右之場所^江下馬^ニ成也

一同日 若君様御七夜御祝儀^ニ付、九ツ時 西之丸^江 公方様渡 御被遊候

一同日 西ノ丸^江惣出仕有之面々着座之次第

紀伊中納言殿 水戸少将殿

紀伊中将殿

松平加賀守 松平肥後守

松平讃岐守 松平陸奥守

松平大隅守 松平相模守

松平左京大夫 松平兵部太輔

松平但馬守 松平越前守

松平大学頭 松平出羽守

松平左兵衛督

松平播磨守

松平若狭守

松平庄次郎

御譜代衆

同嫡子

高家衆

同嫡子

御奏者番

菊之間縁類詰

布衣以上御役人

一 於 西ノ丸 御目見御祝儀之餅・御吸物被下之、御三家・溜り詰・松平陸奥守初於 御白書院 公方様 大納

言様^江 御目見、畢^而御祝之餅・御吸物出^ル、退去

一 御本丸^{ニ茂} 右為御祝儀登 城、御奏者番謁之

一 西ノ丸^江惣出仕^{ニ付}、西ノ丸相濟候以後 御本丸^{江茂} 右之外登 城、於大広間御奏者番謁之

一 同日 若君様 御名 竹千代様^与 公方様今被進候、公方様思召^{ニ茂}、此度之儀御十分之儀^ニ思召候、権現

様御名^{ニ茂}候^{江者}、外之御名可被進被思召^茂候得共、御代々之御名之儀達^而被進候様^{ニ与}、年寄共申上候^{ニ付}、竹千代

様^与御名被進候、此段具^ニ申間候様^{ニ与} 上意之由、御老中松平能登守列座^{ニ而}、於席々松平左近將監申渡之

一 御名被進候^{ニ付}、於 西之丸御囃子有之

御囃子番組

弓八幡 十大夫

三太郎

権八

清次郎

又六

東北

觀世大夫

二郎右衛門

市右衛門

新九郎

高砂

十大夫

九郎兵衛

惣右衛門

五郎次郎

庄兵衛

右之通御囃子有之

一同日 公方様分 竹千代様江被進候品

御使老中

御産衣 五重

白綾織 惣地紋松竹宝尺織物御紋葵松竹鶴龜取卷

白紗綾 右同断、白練 右同断

御下召羽二重両面 五ッ

御刀 正宗代金三百枚

御脇差 堺志津代金千貫

白銀 百枚

綿 百把

三種 二荷

大納言様分 竹千代様江被進候品

御使老中

御産衣 五重

白綾織 惣地紋松竹宝尺織物御紋葵松竹鶴亀取卷

白紗綾 右同断、白練 右同断

御下召羽二重両面 五ツ

御刀 長光代金百枚

御脇差 来国光代金三千貫

白銀 百枚

綿 百把

竹千代様江右之通被申之

公方様江 大納言様江被進候品

御使老中

一
白銀 百枚
綿 百把

三種 二荷

大納言様江 公方様江被進候品

御使老中

一
作り太刀 百枚
白銀 百枚

三種 二荷

右之通 御祝儀被進之候

公方様 大納言様江御女中様方江被進候品

一位様江

一 卷物 三十
二種 一荷 宛 御使御側衆被遣之

月光院様江

一 卷物 式十
二種 一荷 宛 御使御留守居被遣之

瑞春院様江

一 綿 式拾把
二種 一荷 宛 御使右同人

養仙院様
竹姫君様江

一 綿 式拾把
二種 一荷 宛 御使右同人

利根姫君様江

一 綿 三拾把
二種 一荷 宛 御使御留守居被遣之

右衛門督殿御簾中江

一 綿 式拾把
一荷 宛 御使右同断

法心院殿
蓮淨院殿
寿光院殿
江

一 一種 千疋 宛 御使右同断

御産婦江

一 白銀 五拾枚
一 卷物 十 宛
一 荷 宛

御七夜為御祝儀、御女中様方江右之通被進之候

公方様 大納言様江

右衛門督殿
刑部卿殿
江

一 綿 式拾把 宛
一 種 一荷

右御使御側衆被遣之候

公方様 大納言様江 御祝儀被遣物被下物

上使西丸老中松平能登守

一 綿 三拾把 紀伊中納言殿
二種 一荷 宛 尾張中納言殿
水戸少将殿

上使右同人

一 卷物 十
一 種 一 荷

紀伊中将殿

一 右同断

上使御奏者番松平備中守
松平加賀守

一 右同断

上使同高木主水正
松平大隅守

一 右同断

上使同朽木土佐守
松平越前守

一 一種 一 荷 宛

上使同朽木土佐守
松平陸奥守
上使高木主水正
松平上総入道

御役人方^江被下物之品

一 時服六

松平左近將監

一 右同断

本多中務太輔

一 右同断

松平伊豆守

一 右同断

松平右京大夫

一 右同断

松平能登守

一時服四ツ宛

┌──────────┐	本多伊予守
	西尾隠岐守
	板倉佐渡守
	小出信濃守

水野壱岐守

右著 公方様ハ 若君様御七夜ニ付、御役人方江於御座間拜領之

大納言様ハ御祝儀被下候面々

一 (御刀) 一腰 左国行代金貳拾五枚

松平左近将監

一 (御刀) 一腰 延寿国資

松平中務太輔

一 御刀 一腰 中嶋来代金貳拾枚

酒井雅楽頭

一 御刀 一腰 青江代金拾枚

松平和泉守

右著 大納言様ハ御七夜ニ付御祝儀拜領之

公方様ハ御産御用相勤候ニ付拜領之面々

一時服 拾 松平左近将監

一時服 同断 本多中務太輔

一時服 同断 酒井雅楽頭

一時服 五 松平和泉守

一時服 七 本多伊予守

一時服 五

水野壱岐守

右御誕生御用相勤ニ付、於輿被下之

大納言様分被下候面々

老中

一時服 六ツ宛

(松平右京大夫
松平能登守)

若年寄

一時服 四ツ宛

水野壱岐守

小出信濃守

公方様 大納言様分 御本丸・西之丸被為被下候品

一時服 三ツ宛

御側衆江

(加納遠江守
戸田肥前守
巨勢縫殿頭
洪谷和泉守
小笠原石見守)

一時服 貳ツ

藪主計頭

御本丸

一 白銀貳百枚

西丸

一 白銀貳百枚

(御小姓
御小納戸
御医師)

(御小姓
御小納戸
御医師
嶋浦檢校)

御本丸

- 一 白銀五枚宛 (老女) 久米
- 一 白銀三枚宛 御客応答 御中臈 御錠口表使
- 一 白銀百枚 惣女中
- 一 白銀五枚宛 (大上臈) 御介添
- 一 白銀三ツ宛 (老女) 御乳人
- 一 白銀三枚宛 (小上臈) 御客応答
- 一 金五百疋宛 (御中臈) 御錠口表使 御さし
- 一 金三百疋 左宝司 西丸御屋敷御用人格
- 一 白銀百五拾枚 惣女中
- 一 白銀三枚宛 一位様 御年寄

- 一 白銀式枚宛 (小上臈) 中年寄
- 一 金五百疋 御中臈
- 一 白銀壹枚宛 (御小姓) 表使
- 一 白銀式拾枚 惣女中
- 一 白銀三枚宛 (大上臈) 御介添 御年寄格
- 一 白銀式枚宛 小上臈
- 一 金五百疋宛 若年寄
- 一 白銀壹枚宛 (御中臈) 御小姓 表使
- 一 同式拾枚宛 惣女中
- 一 同三枚宛 右衛門督殿
- 一 同三枚宛 大上臈
- 一 同三枚宛 御年寄

右衛門督殿

一 同三枚宛

(濱野
沢野)

一 同三枚宛

刑部卿殿

中村
岩城

一御使老中松平能登守^江卷物五ツ宛、右之外御使^ニ卷物式ツ宛

一女中御使^江卷物式宛、但是^著御広敷承合可被相廻候

一御用人御使^江白銀三枚宛、右之通可有支度候

一同日 竹千代様附被 仰付候面々

(水谷出羽守
大久保下野守)

右兩人五百石宛御加増被下置、御側被仰付候

竹本肥後守

野村覚右衛門

右兩人御抱守被 仰付之

一今度 竹千代様^与奉称候^ニ付、若君様^与ハ唱申間敷候、其^著識 若君様^著 大納言様御事^ニ

御座候、御産婦様^著御部屋様と唱申候

西城降誕録卷之四 上

若君様^江御七夜^ニ付諸大名^ハ獻上之次第

一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 御腰物 一種	一 右同断	一 御産衣 御腰物 一種	一 右同断	一 右同断	一 御産衣 御腰物 二種
一重 一腰 一荷	一重 宛	一重	一重 御大小 一荷	一重	一重	一腰 一重			一重 御大小 一荷
松平庄次郎	松平播磨守 松平朝負佐	松平大学頭	松平讃岐守	松平中務太輔	松平左京大夫	松平但馬守	水戸少将殿	紀伊中納言殿	尾張中納言殿

一 右同断	一 右同断	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 二種
		一重 御大小 一荷	一重 一腰 一荷	一重 御大小 一荷	一重	一腰 一重	一腰 一重	一重 宛
松平出雲守	松平加賀守	松平肥後守	松平左兵衛督	松平大和守	松平遠江守	松平幸千代	松平河内守 松平志摩守	松平兵部太輔

<p>一 御産衣 御腰物 二種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 一種</p>	<p>一 御産衣 右同断</p>	<p>一 御産衣 御腰物 二種</p>	<p>一 御産衣 一種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 二種</p>	<p>一 御産衣 一種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 一種</p>
<p>一腰 一重</p>	<p>一腰 一重</p>	<p>一重</p>	<p>一荷 御大小 一重</p>	<p>一重</p>	<p>一荷 御大小 一重</p>	<p>一重</p>	<p>一荷 一腰 一重</p>
<p>伊達左京</p>	<p>田村隱岐守</p>	<p>伊達伊織</p>	<p>松平陸奥守</p>	<p>嶋津但馬守</p>	<p>松平大隅守</p>	<p>前田丹後守</p>	<p>松平備後守</p>

<p>一 御産衣 一種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 一種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 二種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 一種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 二種</p>	<p>一 御産衣 一種</p>	<p>一 右同断</p>	<p>一 御産衣 御腰物 一種</p>	<p>一 御産衣 御腰物 二種</p>
<p>一重</p>	<p>一荷 一腰 一重</p>	<p>一荷 御大小 一重</p>	<p>一腰 一重</p>	<p>一荷 御大小 一重</p>	<p>一重</p>	<p>宛</p>	<p>一腰 一重</p>	<p>一荷 御大小 一重</p>
<p>松平隼之助</p>	<p>黒田甲斐守</p>	<p>松平筑前守</p>	<p>松平宮内少輔</p>	<p>松平安芸守</p>	<p>細川長門守 黒田大和守</p>	<p>細川備後守</p>	<p>細川大和守</p>	<p>細川越中守</p>

一 御産衣 一種	一 右同断	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 二種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 二種
一重		一荷 一腰 一重	一荷 御大小 一重	一荷 一重 宛	一荷 一腰 一重	一腰 一重	一荷 御大小 一重
鍋嶋備前守	鍋嶋撰津守	鍋嶋加賀守	松平信濃守	毛利讃岐守 毛利周防守 池田内匠頭	毛利岩之助	毛利但馬守	松平大膳大夫

一 御産衣 一種	一 右同断	一 右同断	一 右同断	一 右同断	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 二種
一重					一荷 御大小 一重	一重	一荷 御大小 一重	一腰 一重	一荷 御大小 一重
井伊伊賀守	有馬中務太輔	松平土佐守	松平阿波守	藤堂和泉守	井伊掃部頭	池田丹後守	松平大炊頭	松平撰津守	松平相模守

一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 右同断	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種
一重 宛	一重 御大小 一荷 宛	一重	一重 御大小 一荷	一重	一重 一腰 一荷		一重	一重 一腰 一荷
松平備前守 松平玄蕃頭	松平隱岐守 松平越中守 松平下総守 奥平大膳大夫 松平甲斐守	佐竹壹岐守	佐竹右京大夫	岩城河内守	有馬日向守	保科彈正忠	有馬備後守	藤堂幸次郎

一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 二種	一 御産衣 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種
一重 一腰	一重 一腰 一荷	一重 一腰	一重	一重 御大小 一荷	一重	一重	一重 一腰
宛	宛	宛	宛	宛	宛	宛	宛
本多伊勢守	本多主膳正	本多紀伊守	本多兵庫頭 本多越中守	上秋民部太輔 榊原式部太輔	松平大膳少輔 柳沢民部少輔 松平彈正小弼 上秋駿河守 本多肥前守		松平筑後守

一 御産衣 一種	一 御産衣 二種	一 御産衣 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 二種	一 御産衣 二種
一重	一荷 御大小 一重	一重 宛	一荷 一腰 一重	一重 宛	一荷 御大小 一重	一荷 御大小 一重
大久保筑後守	大久保出羽守	酒井信濃守 酒井播磨守 酒井越前守 酒井山城守	小笠原壹岐守	小笠原近江守 小笠原信濃守 小笠原左衛門佐	酒井備後守 酒井左衛門尉	宗対馬守 堀田相模守 南部修理大夫 酒井雅楽頭

一 御産衣 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 二種	一 御産衣 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 二種	一 御産衣 一種
一重 宛	一重 宛	一荷 御大小 一重 宛	一荷 一腰 一重	一重	一荷 御大小 一重	一腰 一重
戸田玄蕃	戸田右近将監 阿部因幡守 安倍撰津守	丹羽長門守	立花飛驒守 戸田徳次郎 丹羽左京大夫 真田豊後守 阿部豊後守 阿部伊勢守	稲葉万次郎	立花出雲守	稲葉内匠頭 大久保山城守

一 御産衣 一重
御腰物 一腰 宛
(戸田出雲守 秋元但馬守)

一 御産衣 一重
御腰物 一腰 宛
南部甲斐守 堀田若狭守

一 御産衣 一重
御腰物 一腰 宛
堀田出羽守 松平備中守 松平縫殿頭

一 御産衣 一重
御腰物 一腰 宛
(土屋左門 牧野民部少輔)

一 御産衣 一重
御腰物 一腰 宛
松平右近将監

諸家献上御産衣台之図 (画像3)

一右御産衣廿万石以上者御上召唐織・御下召羽二重、其以下者御上召縷子・御下召羽二重等差あり

一御台、白木、葵之御紋、金粉御模様ちらし、松竹来は、宝つくし、青黄赤白黒の五色を以いろとり、金銀の粉を以飾之

一 御産衣 一重
御腰物 一腰 宛
牧野内膳正

一 御産衣 一重
御腰物 一腰 宛
(牧野越中守 中川内膳正)

一 右同断 松平豊後守

一 御産衣 一重
御腰物 一腰
牧野河内守

一 御産衣 一重
御腰物 一腰
本庄大和守

西城降誕録 卷之四 下

竹千代様江御七夜ニ付諸大名々献上之次第

一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 右同断	一 御産衣 御腰物 一種
一重	一腰 一重	一荷 一腰 一重	一重	一腰 一重	一荷 一腰 一重		一荷 一腰 一重

松平源之助 水野日向守 内藤播磨守	松平山城守	水野監物	松平対馬守	松平遠江守 松平市正	松平伊賀守 松平紀伊守 松平周防守	松平丹波守	松平主殿頭
-------------------------	-------	------	-------	---------------	-------------------------	-------	-------

一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種
一重	一腰 一重	一重	一荷 一腰 一重	一腰 一重	一腰 一重	一重	一荷 一腰 一重

宛

内藤下総守	内藤大和守	内藤山城守	内藤紀伊守	土井甲斐守	土井八助	土井弁之助 内藤備後守
-------	-------	-------	-------	-------	------	----------------

一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 右同断	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種
一重 一腰 一荷	一重	一重 一腰 一荷	一重	一重 一腰 一荷		一重	一重 一腰 一荷
宛			宛	宛			宛

加藤遠江守 伊東修理亮 岡部美濃守 脇坂淡路守	井上遠江守 井上山城守	仙石陽之助	京極出羽守 京極甲斐守 京極備後守	井上河内守 久世隱岐守	松浦大和守	石川播磨守	戸沢上総介 安藤対馬守 松浦壱岐守 相馬弾正少弼 石川主殿頭
----------------------------------	----------------	-------	-------------------------	----------------	-------	-------	--

一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 御腰物 一種	一 御産衣 一種	一 御産衣 一種
一重 一腰	一重	一重 一腰	一重 一腰	一重
宛		宛		宛

朽木土佐守 諏訪因幡守 九鬼伊勢守 永井飛騨守 金森兵部少輔 亀井豊前守 津輕出羽守 青山大膳亮	板倉右近	板倉甲斐守	溝口出雲守 秋田信濃守 青山伯耆守 板倉相模守 間部若狭守 加藤孫三郎	伊東若狭守 加藤織部正
---	------	-------	--	----------------

	一 御産衣 一重 宛	一 御産衣 一重 宛	一 御産衣 一重 宛	一 御産衣 一重 宛	一 御産衣 一重 宛	
織田幸次郎 織田下野守	織田兵部太輔 関播磨守	森豊五郎 森伊勢守	六郷阿波守 相良遠江守 增山河内守 三浦志摩守 木下和泉守 木下美濃守 植村土佐守 植村出羽守 大村河内守	堀出雲守 堀美濃守	秋月佐渡守 堀左京亮 稻垣摂津守 鳥居伊賀守	堀長門守 稻垣安芸守 九鬼大隅守 永井播磨守

一 御産衣 一重 宛	一 御産衣 一重 宛	一 御産衣 一重 宛	
加納遠江守 谷出羽守	一柳兵部少輔 一柳土佐守 新庄越中守 青木源五郎	北条相模守 山口修理亮 建部丹波守 森川兵部少輔 高木主水正 遠山和泉守 米津出羽守 片桐石見守 太田原飛騨守 米倉鍋三郎 小堀和泉守 三宅備後守 土方河内守	五嶋淡路守 久留嶋信濃守 渡辺越中守 内田出羽守 市橋下総守 大関信濃守 分部和泉守

御役人方

柳生但馬守
遠藤備前守
松前志摩守

一 御産衣 一重
御腰物 一荷

松平左近将監

一 御産衣 一重
御腰物 一荷

水野壹岐守
本多伊予守
小出信濃守
西尾隱岐守

一 御産衣 一重
御腰物 一荷

松平伊豆守
松平左京大夫

以上

一 御産衣 一重
御腰物 一荷

本多中務太輔
太田備中守

一右献上物^者 西ノ丸御玄関迄在府・在邑之諸大名一同に以使者献上之、尤献上物に銘々ニ包熨斗・堅御目錄添也

(裏表紙・白紙)

(表紙・題簽) 「〔虫損〕録 坤」

西城降誕録卷之五

公方様 大納言様^江 若君様御七夜ニ付諸大名

献上物之次第

一五月廿八日

一二種 耆荷 宛

一一種 耆荷

一二種 耆荷

一一種

一二種 一荷

一一種 宛

一一種 一荷

一二種 一荷

一一種

一二種 一荷

一一種 宛

一二種 一荷

一一種 一荷

尾張中納言殿
紀伊中納言殿

同 中將殿

水戸少將殿

松平但馬守

松平左京大夫
松平中務太輔

松平讚岐守

松平大学頭

松平播磨守
松平鞠負佐

松平庄次郎

松平兵部太輔

松平河内守

松平幸千代

松平近江守
松平志摩守

松平大和守

松平左兵衛督

一二種 一荷

一一種

一二種 一荷

一一種 一荷

一二種 一荷

一一種 一荷

一一種

一二種 一荷

一一種 一荷

一一種

一二種 一荷

一二種 一荷

一一種 一荷

一一種

一二種 一荷

一一種

松平肥後守

保科弾正忠

松平加賀守

同 又左衛門

松平出雲守

松平備後守

前田丹後守

松平大隅守

同 又三郎

鳴津但馬守

細川越中守

松平陸奥守

同 越前守

田村隱岐守

伊達伊織

伊達左京

細川備後守
細川大和守

一二種一荷

丹羽長門守
宗対馬守

一二種一荷宛

稻葉内匠頭
立花飛驒守
丹羽左京大夫
真田豊後守
阿部豊後守

一二種一荷

同 飛驒守

一二種一荷

稻葉万次郎

一二種一荷

阿部伊勢守

一二種一荷

(アキママ)

一二種一荷宛

戸田出雲守
秋元但馬守

一二種一荷宛

南部修理大夫
堀田相模守

一二種一荷

戸田徳次郎

一二種一荷

土屋左門

一二種一荷

松平右近將監

一二種一荷

牧野民部少輔

一二種一荷

牧野越中守

一二種一荷

中川内膳正

一二種一荷

松平豊後守

一二種一荷宛

一二種一荷宛

一二種一荷宛

松平主殿頭

松平丹波守

松平伊賀守

松平紀伊守

松平周防守

水野監物

土井弁之助

内藤備後守

内藤紀伊守

戸沢上総介

安藤対馬守

松浦壹岐守

相馬彈正少弼

石川主殿頭

京極佐渡守

仙石陽之介

井上河内守

久世隱岐守

脇坂淡路守

岡部美濃守

伊東修理亮

加藤遠江守

間部若狭守

板倉相模守

青山伯耆守

秋田信濃守

一一種宛

一一種宛

溝口出雲守
 牧野内膳正
 牧野河内守
 本庄大和守
 松平備中守
 松平縫殿頭
 松平山城守
 松平源之助
 松平遠江守
 松平市正
 水野日向守
 土井八助
 土井甲斐守
 内藤播磨守
 内藤山城守
 内藤大和守
 内藤下総守
 松浦大和守
 石川播磨守
 京極出羽守
 京極甲斐守
 京極備後守
 井上遠江守
 井上山城守
 伊東若狭守
 加藤織部正

一一種宛

加藤孫三郎
 板倉右近
 板倉甲斐守
 青山大膳亮
 津輕出羽守
 亀井豊前守
 金森兵部少輔
 永井飛騨守
 永井伊賀守
 永井播磨守
 九鬼伊勢守
 九鬼大隅守
 諏訪因幡守
 朽木土佐守
 鳥居伊賀守
 稲垣撰津守
 稲垣安芸守
 堀左京亮
 堀出雲守
 堀長門守
 堀美濃守
 秋月佐渡守
 大村河内守
 植村出羽守
 植村土佐守
 木下美濃守
 木下和泉守

一一種宛

三浦志摩守
 增山河内守
 相良遠江守
 六郷阿波守
 森伊勢守
 森豐五郎
 関播磨守
 織田兵部太輔
 織田織部
 織田幸次郎
 織田下野守
 分部和泉守
 大関信濃守
 市橋下総守
 内田出羽守
 渡辺越中守
 久留嶋信濃守
 五嶋淡路守
 土方河内守
 三室備後守
 小堀和泉守
 米倉鍋三郎
 太田原飛驒守
 片桐石見守
 米津出羽守
 遠山和泉守
 高木主水正

一一種宛

一一種宛

御役人方

一一種一荷宛

一一種宛

森川兵部少輔
 建部丹波守
 山口修理亮
 北条相模守
 青木源五郎
 新庄越中守
 一柳土佐守
 一柳兵部少輔
 柳生但馬守
 遠藤備前守
 谷出羽守
 加納遠江守
 松前志摩守
 松平左近將監
 松平伊豆守
 本多中務太輔
 松平右京大夫
 太田備中守
 西尾隱岐守
 土岐丹波守
 水野壹岐守
 本多伊予守
 松平能登守
 小出信濃守

以上

一 公方様^江之御献上物 御本丸御玄関迄

一 大納言様^江之御献上物ハ西丸御玄関迄

右^著在府・在邑之諸大名一同^ニ以使者献上之、右之献上物^ニ銘々に包熨斗添之

西城降誕録卷之六

一同廿八日御七夜^ニ付 若君様^江拾万石以上之嫡子・隠居献上物之事

一 一種一荷 紀伊中将殿

一 一種一荷 松平又左衛門

一 一種一荷 松平上総介

一 一種一荷 松平又三郎

一 一種一荷 松平越前守

一 一種一荷 松平伊勢守

一 一種一荷 松平丹後守

一 一種一荷 松平出羽守

一 一種一荷 松平茂十郎

一 一種一荷 井伊掃部頭隠居

一同断 有馬中務太輔隠居

一同断

一同断

一同断

一同断

一同断

一同断

以上

佐竹修理大夫

松平飛驒守

奥平熊太郎

小笠原近江守

阿部飛驒守

阿部留之助

御産婦^江御七夜^ニ付諸大名^今差上物之事

一白銀貳拾枚	尾張中納言殿
一白銀拾枚	紀伊中納言殿
一白銀三枚	同 中将殿
一白銀拾枚	水戸少將殿
一白銀貳枚	松平但馬守
一右同斷	松平左京大夫
一白銀貳枚	松平中務太輔
一白銀五枚	松平隱岐守
一白銀貳枚	松平大學頭
一右同斷	松平播磨守
一白銀三枚	松平彦次郎
一白銀拾枚	松平兵部太輔
一白銀貳枚	松平河内守
一白銀五枚	松平幸千代
一白銀貳枚	松平近江守
一右同斷	松平志摩守
一白銀五枚	松平大和守

一同 三枚
一同 五枚
一同貳拾枚
一白銀三枚
一白銀五枚
一白銀三枚
一白銀貳拾枚
一同 三枚
一右同斷
一同貳枚宛
一同銀三枚
一同 五枚
一同貳枚宛
一白銀十枚
一同貳枚宛

松平左兵衛督
松平肥後守
松平加賀守
同 又左衛門
松平出雲守
松平備後守
松平大隅守
同(アキママ)
松平上総入道
保科彈正忠
前田丹後守
嶋津但馬守
松平陸奥守
同 越前守
伊達伊織
田村隱岐守
伊達左京
細川越中守
細川大和守
細川備後守

一白銀二枚宛	細川長門守
	黒田大和守
	松平宮内少輔
	毛利但馬守
	毛利讃岐守
一白銀拾枚	松平筑前守
一白銀三枚	黒田甲斐守
一白銀拾枚	松平安芸守
一白銀三枚	同 伊勢守
一白銀拾枚	松平大膳大夫
一白銀三枚	毛利岩之丞
一白銀拾枚	松平信濃守
一白銀三枚	同 丹後守
一同 三枚	鍋嶋加賀守
一右同断	鍋嶋摂津守
一同 貳枚	鍋嶋備前守
一白銀拾枚	松平相模守
一同 三枚	同 出羽守
一同 貳枚	松平摂津守

一右同断	松平隼之助
一同 拾枚	松平大炊頭
一同 三枚	同 茂十郎
一同 拾枚	井伊掃部頭
一白銀貳枚ツ、	池田内匠頭
一同 拾枚	池田丹波守
一同 三枚	藤堂和泉守
一同 五枚	藤堂幸次郎
一右同断	松平阿波守
一右同断	松平土佐守
一同 貳枚宛	有馬中務太輔
一同 三枚	井伊伊賀守
一同 五枚	有馬備後守
一同 三枚	有馬日向守
一同 三枚	佐竹右京大夫
一同 三枚	佐竹修理大夫
一白銀貳枚ツ、	佐竹壱岐守
	岩城河内守
	松平備前守

松平筑後守
松平玄蕃頭
松平大藏少輔

一同 式枚宛

松平越中守
松平隱岐守

一同 三枚

松平下総守

小笠原左衛門佐

同 飛驒守

酒井雅楽頭
酒井備後守

奥平大膳大夫

一白銀五枚宛

同 熊太郎

酒井左衛門尉
大久保出羽守
稲葉内匠頭
立花飛驒守
丹羽左京大夫

一白銀五枚宛

松平甲斐守
上杉民部太輔
榊原民部太輔
小笠原右近將監

一白銀五枚ツ、

一白銀三枚

同 遠江守

一同 三枚

真田豊後守
阿部豊後守
同 飛驒守

一白銀式枚宛

柳沢民部少輔
松平彈正少弼
上杉駿河守
本多肥前守
本多兵庫頭
本多越中守
本多紀伊守

一同 五枚ツ、

阿部伊勢守
戸田徳次郎
南部修理大夫
堀田相模守
宗対馬守

一白銀三枚

(アキママ)

一同 式枚宛

酒井信濃守
酒井播磨守
酒井越前守

一白銀貳枚宛

酒井山城守
大久保筑後守

一同 三枚宛

安倍摂津守
大久保山城守
立花出雲守
丹羽長門守
阿部因幡守
戸田右近将監
戸田玄蕃

一同 貳枚宛

稲葉万次郎
秋元但馬守

一同 三枚

南部甲斐守
堀田若狭守
堀田出羽守

一白銀三枚宛

土屋左門
松平右近将監
牧野民部少輔
牧野越中守
中川内膳正
松平豊後守
松平主殿頭
松平丹波守
松平伊賀守

一白銀貳枚宛

一白銀貳枚宛

一白銀三枚宛

一白銀貳枚宛

一白銀貳枚宛

牧野内膳正
牧野河内守
本庄大和守
松平備中守

松平縫殿頭
松平山城守
松平源之助

松平紀伊守
松平周防守

水野監物
土井弁之助

内藤備後守
内藤紀伊守
戸沢上総介
安藤对馬守

松平遠江守

松平市正
松平对馬守
水野日向守

土井八助
土井甲斐守
土井播磨守

内藤山城守
内藤大和守
内藤下総守

一白銀三枚宛

松浦耆岐守
相馬彈正少弼
石川主殿頭
京極佐渡守
仙石陽之助
井上河内守
久世隱岐守
脇坂淡路守
岡部美濃守

一白銀貳枚宛

松浦大和守
石川播磨守
京極出羽守
京極甲斐守
京極備後守
井上遠江守
井上山城守

一白銀三枚宛

伊東修理亮
加藤遠江守
間部若狹守
板倉相模守
青山伯耆守
秋田信濃守
溝口出雲守
伊東若狹守
加藤織部正
加藤孫三郎

一白銀貳枚宛

板倉右近
板倉甲斐守
青山大膳亮
津輕出羽守
龜井豊前守
金森兵部少輔
永井飛驒守
永井伊賀守
永井播磨守
九鬼伊勢守
九鬼大隅守
諏訪因幡守

一白銀貳枚宛

朽木土佐守
鳥居伊賀守
稻垣撰津守
稻垣安芸守
堀左京亮
堀出雲守
堀長門守
堀美濃守
秋月佐渡守
大村河内守
植村出羽守
植村土佐守
木下美濃守
木下和泉守

一白銀式枚宛

三浦志摩守
 增山河内守
 相良遠江守
 六郷阿波守
 森伊勢守
 森豊五郎
 関播磨守
 織田兵部太輔
 織田民部
 織田幸次郎
 織田下野守
 分部和泉守
 大関信濃守
 市橋下総守
 内田出羽守

一白銀式枚宛

渡辺越中守
 久留嶋信濃守
 五嶋淡路守
 土方河内守
 三宅備後守
 小堀和泉守
 米倉鍋三郎
 太田原飛驒守
 片桐石見守
 米津出羽守
 遠山和泉守
 高木主水正

一白銀式枚宛

森川兵部少輔
 建部丹波守
 山口修理亮
 北条相模守
 青木源五郎
 新庄越中守
 一柳土佐守
 一柳兵部少輔
 柳生但馬守
 遠藤備前守
 谷出羽守
 加納遠江守
 松前志摩守

御役人方

一白銀三枚宛

松平左近將監
 松平伊豆守
 松平右京大夫
 本多中務太輔
 太田備中守

一白銀式枚宛

土岐丹波守
 松平能登守
 水野壱岐守
 本多伊予守
 小出信濃守
 西尾隱岐守

以上

一若君様江之御献上物著 西ノ丸御玄關迄、在府在邑之嫡子・隱居之面々以使者献上之
一御産婦江之贈物著 西ノ丸中ノ口迄、在府在邑之諸大名不残以使者被遣之

西城降誕録卷之七

一六月六日 惣出仕之次第

御二七夜、此度 若君様 御誕生被遊候付、為御祝儀御能被 仰付之、 公方様 大納言様、大広間江 出御

紀伊中納言殿 紀伊中將殿

松平加賀守 松平肥後守

松平讃岐守 松平中務太輔

国持大名 同 嫡子

表向四品之列

御譜代衆 同 嫡子

外様大名 表高家

交代寄合

右御能拜見被仰付候、於席々金銀之御料理被下之

御能組

開口

夫五百枝イソエさす松の葉のかすに

こもれる千代の色君か齡のなを

なかくさかふる影のあらハれて目出

度かりける時とかや

翁三番叟

相生風流
弥右衛門
仁右衛門

高砂 觀世大夫 三太郎 又十郎
新次郎 清次郎 庄兵衛

田村 喜内 彦三郎 安兵衛
茂右衛門 六藏

羽衣 十太夫 三郎右衛門 惣右衛門
彦太郎 新九郎 市右衛門

張良 宝生太夫 九郎兵衛 惣右衛門
源七 五郎次郎 又六

祝言 今春太夫 助五郎 権八
久藏 清五郎 清左衛門

金札

末広かり

弥右衛門

福の神

仁右衛門

一 諸町人^江於御白洲御能拜見被 仰付之候

一同七日

惣出仕有之、右 御能之御礼也、 西丸へも右同断

同日

日光為御名代朝発足

阿部豊後守

大納言様^江為御名代昼頃発足 松平隠岐守

同十五日

御名代相仕廻、江戸^江着(阿部豊後守
松平隠岐守)一 竹千代様御宮参被為遊候節、井伊掃部宅^江 御腰被為 懸候一 六月 京都^江御使 高家 織田淡路守右 從 大納言様、京都^江御使、從禁裏千反楽御供米被進候^二付為御礼被遣之旨、於芙蓉之間老中列座、中務太

輔被 仰渡之

(吉田策庵
林中齋)

右 兩人 竹千代様御医師被 仰付之

一同十二日、十三日御三七夜為御祝儀、御能被 仰付之、 公方様 大納言様大広間^江出御

御三家方

御譜代衆

外様大名

右 御能拝見被仰付候、於席々御料理被下之

御能組

—翁三番叟

権之丞

難波

十太夫

九郎兵衛

惣右衛門

久右衛門

六藏

又六

八嶋

七太夫

三助

小八

源七

五郎次郎

江口

觀世太夫

三太郎

庄兵衛

新次郎

清次郎

紅葉狩

八右衛門

三郎右衛門

又右衛門

彦太郎

新九郎

市右衛門

祝言

三太郎

彦三郎

新三郎

新之丞

権九郎

又三郎

岩船

萩大名

八右衛門

居杭

伝右衛門

那須 八右衛門

一同十三日 御三七夜為 御祝儀、惣出仕有之、 西之丸へも右為御祝儀登 城有之

一六月 御部屋様御一家方江被進物之事

一 白銀百枚 御父 梅溪前中納言
二種一荷

一 白銀五拾枚 御母 東町
二種一荷

一 白銀三枚 御兄 梅溪三位
一種一荷

一 右同断 御兄 白川三位

一 白銀三枚 南部 御兄 極楽院
一種一荷

一 白銀三枚 大仏 御兄 金剛院
一種一荷

一 右同断 御弟 千種少将

一 右同断 御弟 亀丸

右者此度從 大納言様為御祝儀被進之候

一同十八日 御誕生之為御祝儀出仕有之、御能被 仰付之、 公方様 大納言様大広間江 出御

御譜代衆

詰衆

菊之問詰

右御能拜見被 仰付候、於席々御料理被下之

御能組

翁三番叟

伝右衛門

弓八幡

宝生大夫

彦三郎

文十郎

源七

五郎次郎

小八

頼政

庄左衛門

久三郎

清左衛門

彦太郎

久次郎

東北

十太夫

九郎兵衛

又六

久右衛門

喜右衛門

龍田ノ由

邯鄲

七太夫

三郎右衛門

惣次郎

茂右衛門

清次郎

市右衛門

乱

観世大夫

三太郎

惣右衛門

新次郎

新九郎

庄兵衛

三本柱

仁右衛門

釣きつね

弥右衛門

一 同十九日、出仕有之、右御能之御礼也、

西丸江渡出仕有之

一 同廿三日、右之御祝儀ニ付、御能被仰付之

出仕之面々

御譜代衆

詰衆 同嫡子

寄合

翁三番叟

弥右衛門

老松

七太夫

彦太郎

三太郎

新九郎

権八

庄兵衛

箆

今春大夫

彦重郎

市郎兵衛

又三郎

六浦

觀世大夫

源七

三郎右衛門

清次郎

惣右衛門

市右衛門

石橋

宝生太夫

新之丞

九郎兵衛

新三郎

又六

祝言

喜内

勝七

久左衛門

久次郎

源助

久八

養老

鼻取すまふ

権之丞

鱸包丁

八之丞

石橋之間

伝右衛門

一 同廿四日、右之刻限出仕有之、御能之御礼也、西丸_{江茂}出仕有之也

(裏表紙・白紙)